



# アイテム しごとと探検隊

23th

アイテムしごと探検隊は「しごとの素晴らしさを伝えたい」という  
私たちの思いから始まりました。  
実際の職場に足を運び、そこで働く人の話を聞くことを通して、  
しごとの大切さ、素晴らしさに出会ったり、  
発見できることを願っています。

## 今回の探検先 株式会社アイテム

### ●隊員紹介(あいうえお順)●

伊藤くん(6年生)	上野くん(6年生)	浦川くん(6年生)	大島くん(5年生)	大場さん(5年生)
萱原さん(6年生)	小林くん(5年生)	是角さん(6年生)	嶋田くん(5年生)	嶋津さん(6年生)
島村さん(5年生)	上楽くん(5年生)	田森さん(6年生)	林くん(6年生)	平岡さん(5年生)
間宮さん(6年生)	三木さん(5年生)	山岸くん(5年生)	横田さん(6年生)	吉田くん(6年生)

## 今回の探検先は…

### 株式会社アイデム

関東・東海・近畿・中国・九州地域での求人広告(本誌ジョブアイデムをはじめ、新聞折込・求人サイト)の発行・運営を中心に人材に関わるサービスをグループで展開。

2007年より小学生を対象としてはじまった「アイデムしごと探検隊」では、参加してくれた子どもたちが延べ400名をこえ、様々な企業を訪問してきました。

今回は、求人広告の仕事を探検しに、20名の子どもたちが東京都新宿区にある本社を訪れました。

●探検実施日:2012年8月18日(土)

# 求人広告ができるまでを子どもたちが探検。

を探している会社をつなぐのが求人広告の役割なんです」

## 求人広告に携わる思い。

求人広告ができるまでには、たくさんの方が様々な思いで携わっている。営業の佐藤さんが説明に立つ。



確かどうかをチェックしながら入力しなければいけません。苦労も多いですが、『あの原稿でたくさん応募があったよ』といった話を聞くと、とてもやりがいを感じます」  
2人の話には、子どもたちはうなずきながらメモを取る。

「営業の仕事は大きく分けて、①見る ②聞く ③伝えるの3つ。①直接足を運び、どのような会社なのかを見ます。②求める人物像や、給料・時間・場所などの条件をできるだけ詳しく聞いていきます。その内容を、③仕事を探している人に伝えるため、目をとめてもらえるように工夫しながら求人広告をつくっていきます」

## 求人広告の役割とは？

小学生20名のしごと探検隊が訪れたのは、新宿にあるアイデム本社。広報担当の望月さんから投げかけられた質問に、「250人?」「700人?」と子どもたちから予想の声が上がります。  
「正解は、493人。日本の全人口の約半分の人たちが何らかの形で働いています。そして、仕事を探している人と、働いてくれる人



を書き入れていく。子どもたちが特に苦戦していたのが、キャッチコピーづくり。悩み抜いた末に、ようやくコピーがひらめいた瞬間は、喜びもひとしお。笑顔で鉛筆を走らせていく。  
原稿をつくり終えた子どもたちの口からは、「難しかったけど、自分で考えた広告を他の人に見てもらえるのがうれしい」「自分の思い通りにしてくれるのが楽しい」との声が。

## 名刺は、その人そのもの。

次に体験したのは、名刺交換。自分の名前が印刷された名刺を受け取って興奮気味の子どもたちに、「アイデム人と仕事研究所」※の大野講師が説明する。  
「大事なものは、笑顔で明るい声(笑声)で挨拶すること。そして名刺というのは、名前が入った会社の『顔』であり、『その人自身』を表しますので、丁寧に対処するようにしてください」



名刺交換のマナーを学んだら、いよいよ本番。まずはチームメイトからスタート。最初は声小さく、ぎこちなかった子どもも、くりかえし練習するうち、声は大きくなり、動作もなめらかに。大人も参加して部屋中のみんなで交換しはじめる頃には、名刺を手渡す姿がすっかり様になってきた。

時間内に、何人と交換できたかな？



話を引き継いだのは、デザイナー(制作の八子さん。営業が考えた内容を元に、パソコンを使って原稿を仕上げるのが仕事だ。「読者がどのように感じるかを考えながら、文字のサイズや色、どこに写真を配置するかといったことを決めていきます。また、時給や電話番号の数字を1ケタ間違えただけでも大きなトラブルにつながるので、文字が正

## 求人広告の現場へ。

つづいて子どもたちが職場見学に向かったのは、大手企業の原稿を多数取り扱う営業部のオフィス。よく知ったお店やテーパークのロゴマークを見て、



「知ってる!」「行ったことある!」と次々に声が上がります。それらの企業の求人広告がここでつくられていると知って、急に身近に感じられてきた様子。

オフィスを奥へと進むと、たくさんのデザイナーがパソコンに向かって原稿を制作している。画面に映っているのが、先ほど自分たちが考えた求人広告と知って、子どもたちは大興奮。  
「もうすぐ仕上がるから、待っていてね」

## 自由な発想で原稿をつくる。

「では、皆さんにも求人広告をつくっていただきます」  
子どもたちは背筋をピンと伸ばし、真剣な表情に。今回挑戦するのは、『ジョブアイデム』の半ページの広告。まずはパン屋、レストラン、保育士、警備員の中から1つを選択。配られた原稿シートを自由に使って、広告の元となる手書きの原稿をつくるのだ。  
一覧表の中から自分が思い描く仕事のイメージにぴったりの写真やイラストを選び、どこに、どれくらいの大きさで入れるか指示



## 世界に一つだけの求人広告。

見学を終えると、チームごとに今日一日の探検内容をまとめ、みんなの前で発表する。「広告をつくる人たちの話を聞いて、働くとは誰かのためにがんばることだと思った」「1つの広告で、人の想いと仕事につながることはすごい」  
「求人広告の会社がなければ、社会は成り立たないと思った」

最後に子どもたちに手渡されたのは、一人ひとりが原稿をつくれた、世界に一つだけの求人広告。完成した作品のぞきこむ表情は誰もが笑顔で、ちよっぴり誇らしげ。この仕事の醍醐味である、イメージを形にする喜びも味わうことができたようだ。



お客様をえがおにしています。いろいろな先輩スタッフがいっしょに働いているので、どんな方でも大丈夫です!

通勤ラクラク  
残業もありません  
所業のある人と人とのふれあう仕事をしたい方大募集します。

大好きなパンに囲まれて  
幸せ気分の中でシフトをまわしませんか?

おいしいパンに自然とそそられて、いつも仕事終わりに買って帰るスタッフは、スタッフもここで働くのが大好きなんです。みなさん、パンが大好きなら、ぜひぜひ、あなたのおいしいパンをお客さまに、喜んで食べてほしいです。お客さまの笑顔を見るために、おいしいパン作りをお手伝いしてください。

お客様をえがおにしています。いろいろな先輩スタッフがいっしょに働いているので、どんな方でも大丈夫です!

通勤ラクラク  
残業もありません  
所業のある人と人とのふれあう仕事をしたい方大募集します。

\*子どもたちが考えた求人広告



## 感想コーナー

- 誰かのために仕事したいです。実際に働く人の話を聞いて、とてもためになりました。
- 働くということは、人をささえる事だと思った。
- 名刺のわたし方を教えてもらい、わたすことが出来るようになって良かったです。



●「アイデムしごと探検隊」ご協力のお願い  
訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しています。子どもたちが「仕事」について考える機会を一緒に提供していただけませんか?  
お問い合わせはアイデムまで ☎0120-938-989

※「アイデム 人と仕事研究所」では、人材育成のためのビジネスマナースクールや就活支援セミナーなどを開催しています。